

日永貴章市長の 所信表明



- ① 次代を担う人材豊かなまちづくり
- ② 安心・安全・支え合いのまちづくり
- ③ 心も身体も健やかなまちづくり
- ④ 快適で活力と賑わいのあふれるまちづくり
- ⑤ 継承・発展のまちづくり

今後進めるまちづくりの
方向性は

公明党あいさい

竹村仁司



Q 子育て世代が求めているものは、心身共に支えられる環境や地域全体の協力による安心感だ。人材豊かなまちづくりにどう取り組むのか。

A 妊娠期から切れ目のない支援を行うため、直接支援や市独自施策を展開

Q 市民が健康で有り続け、地域活動や家庭などで積極的な役割を果たし生きがいを持て

A 地域において役割を持つて互いに支え合うことが大切だ。本市では、高齢者や障がい者など社会的弱者も、住み慣れた地域でいきいきと暮らせる社会を目指したい。住み慣れた地域で、指定管理者と連携してイベントを実施し、スポーツに触れ合う機会も創出した

る、地域共生のまちづくりに向けた考えは。

A 地域において役割を持つて互いに支え合うことが大切だ。本市では、

含み損26億円、道の駅に50億円、今後の市政運営は

日本共産党愛西市議員

河合克平



Q 厳しい財政状況の認識は。

A 歳入歳出の均衡が取れる予算編成を行い、基金に依存しない財政構造とするため、全庁的な事業の見直しを徹底し、サービスや将来への投資の事業に重点化する。

Q 市民の熱中症対策は。

A 家族や地域の見守りを要請する。市内公共施設13カ所にクーリングシエルターを開設する。

A 軽減は考えていない。
Q 物価高騰に苦しむ市民への市独自の対策は。
A 独自の中学校給食費無償化事業や保育園副食代補助事業は効果がある。
Q 3月議会に全会一致で請願が採択された地区防災計画の策定は。
A 各地区が自発的に作成するもので、先進事例の調査を進める。

人口激減の対策は

無会派

吉川三津子



Q 所信表明で、市長は8回も「持続可能な」という言葉を使っている。市長が描く10年20年後の市のイメージは。

Q 子育て支援は充実しているが、それだけでは人口は増えていない。駅前如若者が住みやすいコーポの増設、農村地域の空き家・交通アクセス問題への取り組みは。

A 経済、社会、環境の3側面のバランスを維持し、人がつながり、笑顔があふれ、選ばれ

るまち愛西市を目指していく。

Q 子育て支援は充実しているが、それだけでは人口は増えていない。駅前如若者が住みやすいコーポの増設、農村地域の空き家・交通アクセス問題への取り組みは。

A 調整区域95%と自由土地利用ができない中、市民の住居確保策も進めなければならぬ。現在4駅を中心に計画を準備している。物価・人件費高騰でも交付税は増加せず、今まで以上に人口確保が厳しい状況になる。県と進めている人口減少問題対策で、本市も施策を協議しており、活路を見いだしたい。